平成24年度 中南米日系農業者連携交流委託事業
第1回日系農協等連絡会議議事録 概要

日時： 2012年7月30日 9：00-16:30
会場：サンパウロ市内ニッケイパラセホテル会議室
通訳：日本語-ポルトガル語同時通訳
参加者：ブラジル、パラグアイ、ボリビア各国日系農協等代表20名
農林水産省、在サンパウロ総領事館 副領事、国際協力機構サンパウロ支所
中央開発㈱海外事業部
司会：ADESC会長

＊開会挨拶　ブラジル農業拓殖協同組合中央会（農拓協）会長
「生産した食料を日本へ安定供給することで南米農産物の生産と日本への食料供給の架け橋に」

＊来賓挨拶　在サンパウロ日本国総領事 副領事
「各国生産者間の活発な意見交換と友好関係の維持及び交流が深まることを望む」

＊来賓挨拶　JICAブラジル事務所サンパウロ支所
「ブラジルは農産物生産量の50%を農業組合が担っており、大きな役割を担っている」

＊事業方策発表 農林水産省 都市農村交流課　課長補佐
「皆様の要望を反映した事業を展開し、今後も日系生産者との交流・支援事業を続けていく」

＊事業方策発表 農林水産省 国際協力課 協力官
「面積が狭くても食料生産拡大が可能なことを示すため、日本の持続可能な農業、自然保護型農業を紹介」

＊本事業紹介 中央開発株式会社（CKC）海外事業部
「事業内容の紹介：中南米リーダー人材育成研修、中南米ふるさと交流、研究交流などを予定」

◇南米日系農協等および日系農業者の日本との連携等に関する意見交換

＜要旨＞

・事業の継続性

- 農産物の生産、取引に大きな関心を我々は持っているが、毎回違う事業主体がそれぞれの理想とする事業を展開するため、事業の継続性がなかったことが問題。
- 中長期的活動が出来る、余裕が有る事業として欲しい。

・交流事業からビジネスへと繋げること

- なにかビジネスに繋がるものを見つけることが出来ないか。日本が必要としているものが何かということを知りたい。
- 今回の事業である研修では半分を長期的な視野にたつ若い世代、半分は現在の農協リーダー達を派遣して、ビジネスに繋がる知識を得てきて欲しい。
- 日本サイドの受け入れ企業を探す努力が必要であり、各農協が自分に合った需要先があると考える。見合った交渉先を見つけることが先決である。日本市場に入ることは不可能ではないと思う。
- 農家は商売など考えるなといわれていたが、現在は違う。交流事業をチャンスとして新しい道を積極的に捜し求めることが重要であると考える。
- ブラジルと日本間は農協同士だけでなく（日本の農協は大きすぎて動きが鈍いので)、相手は日本の企業でも良い。

・食の安全

- 食品の安全についても日本は大変に気を使うが、我々も努力をしている。安全が保障されていない化学製品の使用などは避けていることを日本側に知って欲しい。またブラジルの南部、東南部では現在、自然破壊はほとんど生じていない。日本が持つブラジルのイメージを変えてもらいたい。

- 日本は食の安全ということに厳しい。フルッタフルッタとの初期段階には厳しい様々な条件を要求されたが、努力の甲斐あって売り込むことに成功した。途中何度も諦めようと思ったが、根気で日本側の要求を満たしてきた。現在はカカオも明治に輸出している。